

第15講

小幡道昭

2016年9月15日

1/20

■ 目標は

- 1 たくさん資本が、
- 2 競争を通して、
- 3 社会全体の再生産を続けてゆく

資本主義に特有のシステムを知ること。

- そのため、すでに前期において、
 - 1 市場の中心をなす「資本」と
 - 2 社会的な「再生産」と
 について学んだ。

- 後期では、両者を結びつける「競争」に着目。

- 二段階で考えてゆく。

- 1 すべての資本が生産過程を担当している状態（すべての資本がメーカーとして競争）
- 2 生産過程を担当する資本から、担当しない資本が分かれた状態（メーカーと商業資本・銀行業にわかれて競争）

2/20

資本

復習：その1

「資本」とはなにか？

3/20

マージンと利潤

- 1 $W - G - W' \Rightarrow G - W - G'$
- 2 $G - W - G'$ では、同じ商品Wが二度、売買される。
- 3 売値と買値という二つの価格が発生。
- 4 買値 =
- 5 貨幣で買ったら、マイナスの金額（費用）を記帳。商品を買ったら、プラスの金額（収益）を記帳。
- 6 売値 - 原価 = 1個あたりの差益 =
- 7 多数のマージンの一定期間の合計額 =
- 8 一定期間のプライマイで粗利潤がでてくる。

4/20

資本

マージンと利潤
純利潤

- 1 商品の売値・買値は単価
- 2 @ マークはもともと単価記号
- 3 1個10円なら 1000個で1万円 (@10 × 1000)
- 4 マーjinは単価計算ができる。
- 5 そのほかに、単価計算ができない費用がある。
- 6 店舗の費用など、個数に関係なく一定。あるいは、おカネの計算のための費用なども、100個でも10000個でも計算は基本的に同じ。
- 7 単価計算できない費用を という。
- 8 粗利潤 - 流通費用総額 =

5/20

資本

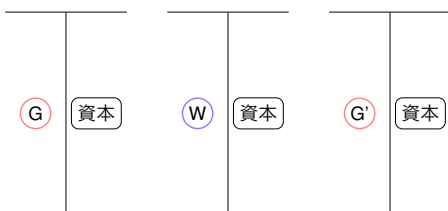
資本

- 1 純利潤を得る目的に使われる、貨幣と商品 (=価値をもつもの) が
- 2 資本の額は営利活動をするまえに、予めきめる必要がある。
- 3 この確定が資本の 。
- 4 資本は される。貨幣は される。この用語は、はっきり区別しよう。
- 5 投下された資本は、貨幣の金額か、価格による金額をもつ商品か、いずれかのすがた shape をしている。
- 6 投下された資本のすがたが「資産」

6/20

資本

運動体



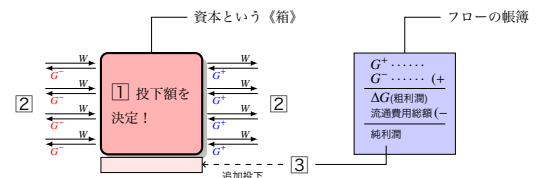
7/20

資本

資本とはなにか？

「自己増殖する価値の運動体」

- 1 「自己」 = を決定する。
- 2 「運動体」 = 売 (+) 買 (-) を繰り返すことで
- 3 「価値増殖」 = の価値を高める。



8/20

- 資本は営利企業の計算システム
- フローとしての利潤計算：損益計算書
- ストックとしての資本計算：貸借対照表
- 両者の比率が利潤率

9/20

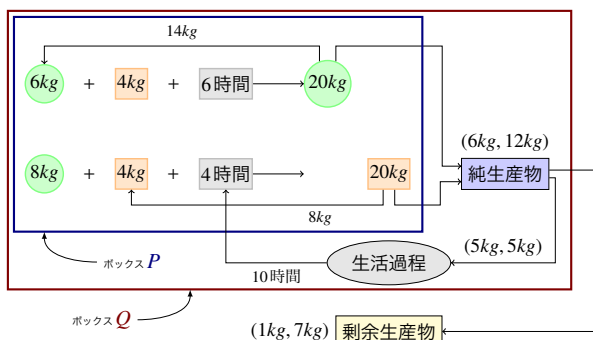
「社会的再生産」とはなにか？

- 社会的=いろいろな生産過程が相互に原料を供給しあうかたちで結びついて（ネットワーク）
- 再=アウトプットが再びインプットされる循環を通じて生産が継続される関係。

10/20

純生産物の分配

2生産物の場合



11/20

重要な仮定

第一の仮定：原料の「代替」は考えない。

- 生産物の量を2倍にするには、原料を同じように、すべて2倍にする必要がある。
- 原料の一つだけを増大させて、生産物の量を少し増大させることができる、とは考えない。
- 車輪の量だけ増大させて自動車の生産台数を増やすことはできるか？
- 原料の間の交換性を強く考える経済学もあるが、この講義では逆の状態を考える。
- 大量生産される人工物はだいたい、後者のタイプ。

12/20

重要な仮定

第2の仮定：同じ「技術」で生産の規模を拡大できる。

- 原料をすべて2倍すれば、生産物の量が2倍になる。
- 原料どうしの比率が一定。生産物がこれに比例。
- たくさんつくと、限界生産力が低下するという考え方をしない。
- 工業製品はベストの工場で作られる。生産量を増やすには、この工場を2つ、3つと増やしてゆくのがふつう。生産力が落ちるのに、原料だけを増加させるという事はしない。

13/20

「社会的再生産」とは

- 生産手段を生産物から補充すると考えることを「再生産」という。
- 消費した生産手段を補充しながら、純生産物を生みだしてゆくことができれば、「再生産」は維持可能。
- 生産手段と生産物の間には、モノとモノの比例関係として生産技術が存在する。
- 生産過程は労働によってコントロールされる。
- 生産物の生産には直接、間接に必要な労働時間が存在する。これを投下労働時間という。
- 投下労働時間は生産技術によってきまる。

14/20

「競争」とはなにか？

15/20

- 個々の資本は、自己の利益しか考えない。
- そうしたい資本が、バラバラに利益を追求するのでは、社会全体の生産のバランスは壊れてしまうのではないか？
- 政府が調整し、行き過ぎを抑え、不足を補う必要があるのではないか？
- これに対して、古典派経済学の答えは、自由競争にまかせておけば、バランスは保たれるというもの。
- でも、どうやって？

16/20

古典派経済学の答え

市場の事後的調整能力・意図せざる結果として・神の見えざる手に操られて....

- 1 もし、ある商品生産物に対する需要が増加し、今までの供給では間に合わないとする
- 2 その商品価格はいまより上昇する。その結果、
- 3 この生産部門の資本の利潤率は上昇するので、
- 4 他の生産部門から、高い利潤率を求めて資本が移ってくる。すると
- 5 需要の増大は、こうして供給の増大によって満たされ、
- 6 供給が増大し、商品価格は下落してゆき、高かった利潤率は下落してゆく。
- 7 逆なら逆になる。

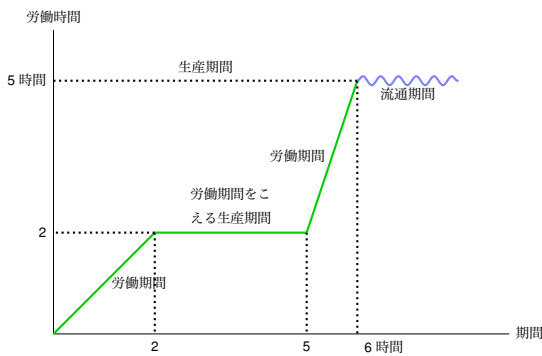
17/20

古典派経済学の答え

- 古典派の答えは、完全な誤りではないが、
- どうも話がうますぎる。
- いくつかの条件があれば、これに近い状況は考えられるが
- 個別の産業資本どうしの自由な競争が、どのようにして、社会的再生産の編成を実現するのか、分析してゆくことにしよう。

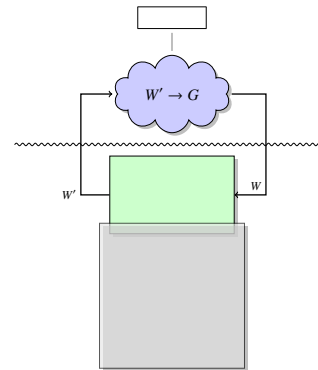
18/20

生産と流通



19/20

二つの環境で生きる



20/20

個別産業資本の特徴

- 流通と生産という違った環境のなかで生きる「両棲類」のような資本
- 二つの制約
 - 1 生産に比べて、事前にきまらない流通資本の投下や流通費用の支出が必要
 - 2 生産をおこなうために、すぐには回収できない固定資本をかかえ、すぐには移動できない
- この二つの制約条件がなければ、古典派の説明は妥当する。
- 次回は、二つの制約を外して、そのとき価格はどうきまるのか、考えてみる。

21/20